製品安全データシート

ＰＰＳ繊維プロコン

株式会社マックス

ＰＰＳ繊維 プロコン®
作成 1998年10月6日
改訂 2005年7月19日
整理番号 00034A

TOYOBO

製品安全データシート

1．製品及び会社情報

製品名	ＰＰＳ繊維 プロコン®
会社名	東洋紡績株式会社
住所	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
担当部門	スパンボンド事業部 FBグループ
電話番号	06-6348-3607
FAX番号	06-6348-3450

2．組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	単一製品
化学名	ポリフェニレンサルファイド
別名	
含有量	99%以上
化学特性(化学式)	$-[C_6H_4-S]n-$
CAS番号	25212-74-2
官報公示整理番号	化審法 7-1143 安衛法 既存扱い
危険有害成分	1%以上の危険有害成分および0.1%以上の発がん性物質を含まない。
化学物質管理促進法 指定化学物質(政令番号)	該当しない
労働安全衛生法 通知対象物(政令番号)	該当しない
毒物劇物取締法 毒物・劇物(政令番号)	該当しない

3．危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響	
有害性	通常の状態では人の健康に対する有害な影響は小さい。
物理的及び化学的危険性	可燃性物質であり、着火源があれば燃える。(消防法　指定可燃物)
分類の名称 (分類基準は日本方式)	分類基準に該当しない。

4．応急措置

吸入した場合	綿埃等の粉塵や、溶融物等から発生するガスを吸った時は、直ちに新鮮な空気の場所に移し、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	溶融物の場合は直ちに大量の清浄な水で冷やす。皮膚上の固まった樹脂は無理にははがさず、医師に診断を受ける。 粉塵等の場合は清浄な水でよく洗い、不快感が残る場合は医師の診断を受ける。
目に入った場合	直ちに清浄な水で5分以上洗い、不快感が残る場合は医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	できるだけ吐き出させ、異常がある場合は、医師の診断を受ける。

5．火災時の措置

消火剤	水、泡消火剤、粉末消火剤
特定の危険有害性	亜硫酸ガスなどの有害ガスが発生する。
消火を行う者の保護	発生ガス(亜硫酸ガス)を吸入しないように注意する。 大規模な火災の場合は、呼吸用保護具及び防火用保護衣を着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項	人体に対する危険有害性は小さいと考えられる。

TOYOBO

製品安全データシート

環境に対する注意事項	環境への影響は小さいが、長期間残留すると考えられるので環境中に廃棄しない。 動物の足などに絡まり傷つける恐れがあるため必ず回収する。
除去方法	箒や掃除機等で全量回収する。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	火災、爆発の防止：常温では引火性はないが、消防法指定可燃物であり、近くでみだりに火気を使用しない。
注意事項	粉塵の発生や溶融を伴う作業をするときは、局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	高速で糸を走行させるなどの作業では糸で皮膚などを切る恐れがあるので、走行中は近づかない。

保管

安全な保管条件	消防法指定可燃物であり、市町村条例に従う。 (消火設備、屋内貯蔵、取扱所など) 火気、熱源より遠ざける。 強酸化剤、濃硫酸、硝酸と隔離して保管する。
適切な容器包装材料	光を通さない容器。品質上の問題はないが、変色する。

８．暴露防止及び保護措置

設備対策	粉塵の発生や溶融を伴う作業等がある場合は局所排気、全体換気装置を設置する。 溶融を伴う作業等がある場合は溶融樹脂と作業者の間に隔壁を設ける。

保護具

呼吸器の保護具	粉塵が多い場合は防塵マスクの着用が望ましい。
手の保護具	保護手袋を着用する。
目の保護具	粉塵が多い場合は保護眼鏡の着用が望ましい。
皮膚及び身体の保護具	糸の高速走行、溶融を伴う作業等では保護衣を着用する。

９．物理的及び化学的性質

物理的状態、色及び形状	固体(繊維、 綿状)
色	白色
臭い	無臭
pH	該当しない
沸点	なし
融点	285℃
分解温度	470℃以上
引火点	480℃以上
発火点	500℃以上
爆発特性	なし
密 度	1.34 g/cm^3
溶解性	水、有機溶媒に対して不溶

１０．安定性及び反応性

安定性	常温、単独では安定で、反応性はない。
反応性	着火源があれば燃える。
避けるべき条件	高熱、炎
避けるべき材料	強酸化剤
危険有害な分解生成物	溶融時、亜硫酸ガスなど硫黄を含む物質を発生する。

１１．有害性情報

急性毒性(LD_{50}等)	有害性はないと考えているが、具体的なデータを持っていない。

TOYOBO

製品安全データシート

局所効果	
吸入	有害性はないと考えているが、具体的なデータを持っていない。
皮膚接触	有害性はないと考えているが、具体的なデータを持っていない。
目の接触	有害性はないと考えているが、具体的なデータを持っていない。
亜急性毒性	他の繊維の知見より、微細繊維を繰り返し吸入すると呼吸系を刺激し、肺に影響/傷害を起こす可能性がある。

１２．環境影響情報

移動性	ないと考えられる。
残留性／分解性	安定で、環境中に長期間残留すると考えられる。
生体蓄積性	ないと考えられる。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄物処理法の産業廃棄物、廃プラスチック類に該当する。産業廃棄物処理業者若しくは地方公共団体が処理を引き受けている場合には地方公共団体に委託する。 焼却するときは、管理された焼却設備を用いて、廃棄物処理法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法等に従って処理する。
汚染容器・包装	残余廃棄物と同じ。

１４．輸送上の注意

国連分類	国連勧告の定義上の危険物には該当しない。
国内規制	輸送に関する法規制には該当しない。
輸送の特定の安全対策及び条	重量物のため、転倒、落下がないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。 破袋の恐れがあるので、水濡れや、乱暴な取扱いはしない。

１５．適用法令

消防法	指定可燃物
廃棄物処理法	産業廃棄物、廃プラスチック類に該当する。

１６．その他の情報

制約事項	記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。 また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。 記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。